

会報

No.20

平成元年11月30日

京都府図書館等連絡協議会

事務局

京都市左京区岡崎成勝寺町9
京都府立図書館内
TEL(075)771-0069



「ゆたかなこころを」

京都府立図書館長

林 芳 男

秋晴れの日曜日、母校A小学校の創立百周年記念式典が催され、久しぶりに懐かしい校門をくぐった。

恩師、友人に会って昔話に花が咲いたが、半世紀前の小学生時代は貧しく苦しかったことしか頭の中に残っていない。

記念展示の資料の中から当時の教科書を見出し「こんな本あったか」と顔を見合わず友達もいて大笑い。学校で習う本は年上の人の使い古しであり、まして教科書以外には読む本も少なかった。裁縫室の片すみに、僅かな本が置いてあったのが当時の母校の図書室で、ほとんどが図鑑などの専門書、子供が親しむ童話などごく少なかったと記憶している。

今は窓ガラスの破れたあの木造校舎は勿論ない。立派な鉄筋校舎に改築されて、広い図書室もある。教育環境もよく整備されている。

私は、かつて、府下の市町村が行う学校建築事業の、補助金担当をしたことがある。どこの市町村も住民要望に応じて多くの事業を進めて行

かねばならず、さりとて、財源に余裕があるわけではなかったが、時代の変化に対応した校舎建築をせねばならなかった。

音楽室の音、調理室の匂い、静けさを求める図書室、限られたスペースの中で教室を如何に配置するか、特に図書室は、将来の蔵書数、書架や閲覧機の配置など市町村教委の知恵の出どころであった。

社会の急激な変化と科学技術の進歩は、我々の身の回りを大きく変えつつある。ビデオが普及し、ウォークマンは若者の必需品となり、電卓は名刺サイズでポケットに、そしてワープロが手近な品となっている。又、子供たちはテレビゲームに熱中している。

今回の教育改革では学校教育中心の考え方を改め、生涯学習体系への移行を主軸とする教育の総合的再編が図られている。学校では学習指導要領の改訂が行われ、自己教育力の育成と心の教育が大きく取り上げられている。ひろい心、ゆたかな創造

力をはぐくむためにも「本を読む子」を育てる必要がある。図書室がどのように利用されているか、もっと皆が強い関心を持つべきだ。

学校での子供の教育は先生にまかせればよい。しかし、生活のしつけや安全教育、読書教育などは父兄も責任をもつべきであると思う。親の読み聞かせをとおして子供たちを本に親しませたい。大人も読み聞かせのできる感性をみがくために、もっと図書館を利用してほしい。

さて、私自身図書館の仕事は初めてである、が、会報十五号にもあるように、理屈ヌキに図書館を好きになりたい。館に来られる人を好きになりたい。二十一世紀を担う心豊かな子供を育てる図書館の役割を自覚して、図書館との連携を深めていきたい。



図書館めぐり

木津町立図書館

木津町立図書館は、昭和五十年八月に開館しました。それまでは、昭和二十七年から京都府立図書館木津分館があったのですが廃館となったことから、その蔵書約三千冊を引き継いで、元山城木津郵便局舎を改装整備したものです。JR木津駅から徒歩五分の商店街の一角に位置しています。蔵書は二万五千冊を備え、六十三年度には、七万二千冊

の図書を貸出しています。

開館以来、地域文化の高揚に重要な役割を果たし、開館十周年、第七十会全国図書館大会で、日本図書館協会より施設表彰をうけました。

昭和六十二年には、「木津町における図書館のあり方について」社会教育委員会より答申され、木津町新図書館建設具体化のための調査がなされています。

また、今年の九月には、木津町ふるさと創生事業審査委員会にて、一億円アイディア創生事業の一つとして移動図書館車と積載図書が選ばれ、現在、その具体化が検討されつつあります。

京北町中央公民館

今後さらに、各種行事を積極的に実施し、広く町民の暮らしの中に、図書館が利用され、一日も早く学研都市木津町にふさわしい新図書館が建設されることを願っています。



京北町は京都市の北隣に位置し人口は七千五百人、総面積二百七十七平方キロメートルでその九十三％が美林でおおわれた静かな農林業の町です。

町の中心を通る国道一六二号線沿いにある京北町文化センターは、昭和五十五年に建設された鉄筋二階建、延べ面積四百六平方メートルの建物で、「文化村」を宣言した京北町の文化の担い手として積極的な活動を展開しています。

当センターには図書室・文化財展示室・それに研修室があり、図書室では毎年定期的に図書を購入し、現在蔵書一万冊を有し児童、主婦層を中心とした幅広い利用者の要求にこたえています。文化財展示室では昨年二月に「京北のあけぼの展」を開催し町内の古文化を紹介し、町民の文化遺産への関心の向上を図るとともに、それらの保存にも力を注いでいます。

研修室においては水墨画教室の開催や俳句会・書道・詩吟など町民の趣味・娯楽活動が活発に行われています。

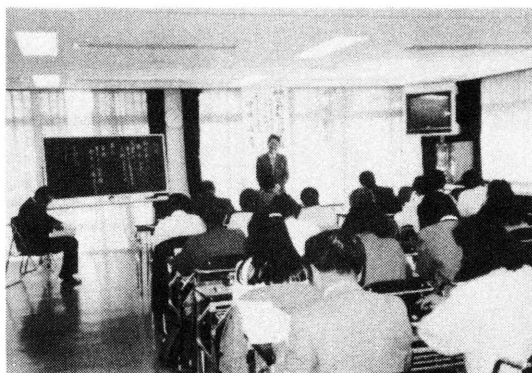
文化センターの年間総利用者は、町民の三分の二にあたる約五千人であり、その名の示す通り京北町の文化の中心として、文化の創造と発展のために積極的な活動を展開しています。



実務研修会（一泊研） 福知山市で開催

平成元年度の一泊研修会が、十月二十四日、二十五日に福知山市北陵総合センターで二十三館三十五名が参加して開催されました。

豊中市立岡町図書館の伊藤峻館長から「これからの図書館」と題した講演が行われ、八幡市立八幡市民図書館の澤田種治館長、舞鶴市立東図書館の中西俊夫館長からそれぞれ実践発表がありました。各先生のお話に引き込まれ、時の経つのも忘れる程で質疑応答も活発、夜遅くまで熱心な討議が続きました。



一泊研修会に参加して

八木町立郷土資料館

図書室

国府論史朗

一泊研修には初めて参加したのですが、伊藤先生の「これからの図書館」についての講演で、「図書館が住民のよりよく生きるため学ぼうという要求にどれだけ応えていくのか。その環境を作りだすためにどれだけいい資料を提供するのか。」という話に、小さな図書室の限られた中でどうすすめていったらいいのか示していただいているようでした。特に、本の選定の重要性、とりわけ本の選定が住民の要求にどれだけ切り込んでいるか等々、それをこなす職員の役割の重要性を再認識しました。また、いま叫ばれている生涯学習の中で図書館はその中心的役割をになっ

ていくものだが、他の社会教育施設ととりわけ公民館との連携は大切だと思いました。

一泊だったので府下の図書館の職員さんと交流でき、また、二日目には八幡市と舞鶴市の図書館の事例を聞かせてもらいながら意見交流をさ

せていただいたのはとても参考になりました。

舞鶴市立東図書館

竹之内英子

今回初めて一泊実務研修会に参加しました。

第一日目は、豊中市立岡町図書館の伊藤先生の講演から始まりました。住民の知りたいという要求に応えるには、貸出し中心の市民の図書館では無理なのは、という先生のお話には少し疑問を感じながらも、レファレンスに答えられる本が少ない我館の実情には、反省させられる思いでした。又、図書館が核になって地域のネットワークを広めていくという話は、市民の信頼を得る図書館となるためにも、これからの重要な課題であると痛感しました。

二日目は、八幡市民図書館の澤田館長と舞鶴市立東図書館の中西館長の事例発表がありました。府北部の図書館は、遠隔地へのサービスが行き届かないという問題がありますが、八幡市は職員が多く、BMも幅広く

活用されているようで、うらやましく感じました。

経験が浅く、難しい話にはついていけないような私ですが、日頃交流のない他館の方々とお話できた事は一番の勉強となりました。今回学んだ事を生かして、今後も励んで行きたいと思います。

京都市伏見中央図書館

内ヶ島久美子

十月二十四日、二十五日の両日、福知山北陵総合センターで、第四十四回実務研修会が実施され参加しました。一泊研修で気分もゆったり、研修もゆったりと言いたところですが、内容は、なかなかハードでした。

伊藤先生のお話は、身近な例と、具体的なアドバイスにあふれ、自館の場合と照らし合わせて考えると、より理解が深まりました。

次に舞鶴東の中西館長のお話では、館の立地条件が、図書館サービスを考えるうえでの大きなポイントであることにあらためて気づきました。気軽な利用の第一条件は、至近距離から一なのかもしません。

さらに、八幡の澤田館長は、地域の情報センターとしての確立を目標

に、日々努力されていることを控え

めに話されましたが、数多くのパンフレットを見ると、簡単にはまねのできないものだとなりました。

フリーターキングでも、おのおの自館の抱負や悩みを率直に語り合え充実した研修でした。

館長の異動

精華町立図書館 新 林 金次

旧 田中 善次

京都府立図書館 新 林 芳男

旧 上田 将

役員等の異動

副会長

新 林 金次

(精華町立図書館長)

旧 田中 善次

顧問

新 林 芳男

(京都府立図書館長)

旧 上田 将



近公図児童部門

研究集会

京都府立図書館

白井八重子

このたび近公図研究集会に参加しました。

研修会には次のようなものがあります。

- (1) 館（複数館）担当者による業務連絡会。
- (2) 府民、県民、市民講座講習会に図書館員も参加。
- (3) 府・市民と共催。
- (4) 図書館協議会や他団体の行う研修会に参加。

そのことによって図書館の役割、専門性の追究、利用者、資料をすること。児童室の職員としては①子どもを知ること。②資料を知ること。

③ ①②を結びつけること。何よりも子どもを知ることが原点です。ということが話し合われました。

松岡享子さんの書かれたものの中で覚えている言葉に、子ども読書の問題を考えると、自分が図書館員だからといって本との接点でだけ子どもを見ていては駄目。子どもは、お父さんや、お母さんや、その他の家族と一緒に暮らしていて、学校にも

行き、友達ともつきあい、遊びもしながら生きていて、その生活あつての読書だし、その生活へ返っていく読書でなければならないことを。

私は母親が子供の本をお借りになる時、それらの本に関係のある図書で親子の語らいが賑らむことを願って、例えば三橋節子作『雷の落ちない村』（小学館）を手にしてられる時は、一般図書の梅原 猛著『潮の伝説―画家三橋節子の愛と死』（新潮社）に自分が感動したことを中添え紹介します。毎日の仕事の中で利用者に喜ばれたら循環的にも、又やる気が出てくる場合や累積的な部分も大きいと思います。子どもを知り、資料を知ることの積み重ね、それしかないと思いました。



ニ ュ ー ス ・ N e w s

移動図書館

「そよかぜ号」を更新
コンピュータを導入

宇治市中央図書館

宇治市中央図書館では開館以来コンピュータを導入し、貸出、返却や予約そして利用統計や蔵書管理などの業務を行っていきます。手作業に比べて処理する時間は確かに早く、貸出しなどの利用が多くなる土・日曜には特に威力を発揮します。しかし、コンピュータ管理となっても返却ミスによるトラブルは起こります。もつとも、これは職員が確認さえすれば防げることかもしれません……。

コンピュータによる検索で不便を感じることは、著者名検索の場合、同一著者であるのにそれぞれの本によって表記が異なるため（特に外国人に多い）、何人もの著者となつて画面に出てくる、ということとです。このようなことも職員にとって使いやすいたけでなく、図書館サービスとしてどうしていくのがよい方向で

あるのか、という視点を忘れてはならないと思います。

ところで、宇治市の移動図書館「そよかぜ号」は今年の八月に新車に更新されました。以前とくらべて車内も広く明るくなった感じで、積載冊数も二千三百冊と増えました。そして、これを機会に移動図書館もコンピュータ化を計画しており、来年の一月実施の予定で準備を進めているところです。今までは冊数だけの貸出記録でしたが、これからは正確な蔵書管理や、利用者へのサービス向上に役立つものと、期待しています。



学校配本

危岡市立図書館

昭和五十七年、子どもたちに読書の喜びをとの願いを込めて、学校への貸出しをはじめました。

当初、本の管理をまかせる形での配本は、仕事の多い先生方に、負担だったようです。三年目のアンケートでもそのことはかくしきれませんでした。子どもたちの喜びとは逆に、先生たちの困惑。図書館も思案しながら配本を続けました。

そして昨年、担当の先生に集っていただき、「図書が少ないので、この配本を楽しみにしています。本の管理と子どもたちの読書のことを考え、家への持ち帰りを少なくし、学級文庫のように使っています。」という話を聞くことができました。以後学級数だけ借りる冊数を増す学校もできました。一部の学校へは、紙芝居の貸出しもはじめました。全校読書会を催し、子どもたちのいきいきした姿を伝えて下さった学校もありました。

こんごさらに、先生の負担を軽くし子どもたちに喜んでもらえるよう検討してみたいと思っています。

テーマ別図書の展示

京都市左京図書館

左京図書館では、図書館事業として、紙芝居、本の読み聞かせ、民話を題材としての絵本作り等を実施していますが、図書室の一部を「特設コーナー」として、テーマ（人権週間、健康読書フェア等）を決めて、常時関連図書の展示と貸出しを行っています。

本年度は、テーマ数十二、展示図書約三千冊の計画となっています。

関連図書の展示により、利用者に對してテーマに関連した記念日、月間等の意義の普及、啓蒙等に役立つ



という啓発効果をあげるとともに、利用者から、館内を巡回せずに容易に関連図書を探し出すことができる」と好評を得ています。

また、図書館側でも、関連図書をビツクアップする過程で、蔵書構成上参考になることが多く、今後の選書上、非常に役立っています。

講座「源氏物語を読む」

京都府立図書館

京都府立図書館では、平成元年度の読書推進講座を十月九日から十一月十三日までの間、六回にわたり開催しました。テーマは「昨年好評で続きの希望の多かった「源氏物語を読む」で、今回は末摘花から賢木までを、京都府立大学女子短期大学部の中井和子教授に講義していただきました。二百名を超える応募者の中から抽選で選ばれた七十二名の方が毎回熱心に参加されました。全六回のうち十一月十一日は文学散歩として清凉寺で福田孝子先生の朗読を聞きました。当日はお天気にも恵まれ、小堀遠州作の庭園の前方に集まって流れるような朗読に耳をかたむけました。後、清凉寺の三国伝来の釈

迦像を拝観させていただき、野宮神社へと嵯峨野散策をし、神社では宮司さんから由来などを説明していただいたあと解散しました。

講座終了後のアンケートでも続編を希望する事の多かったことを考えると、大変好評であったと思われる。



専門委員会ニュース

相互協力委員会

お待たせしました

「雑誌・新聞総合目録」刊行

相互協力委員会は、本年度2回目の会合を、10月26日に開催し、作成中の上記目録の全体構成確認作業と最終校正作業を行いました。

この記事が出る頃には、刊行されている予定です。

目録の概要は次のとおりです。

書 名：「京都府公共図書館等所蔵 雑誌・新聞総合目録」

刊 行：京都府図書館等連絡協議会、京都府立図書館

装 丁：B5版、約190頁

内 容：昭和63年10月末現在で、京都府内にある公共図書館、公民館図書室等43施設が所蔵する雑誌・新聞の総合目録。

本編（1580タイトル収録）と別編（1500余タイトル収録）からなる。別編は府立総合資料館の「逐次刊行物目録（昭和56年12月末現在）」の追録に相当。

この目録の特色は、公立図書館のみでなく、公民館図書室等も協力された目録であることだと思います。京都府図書館等連絡協議会の存在の大きさを今さらのごとく感じます。



研修研究委員会

1. 京庫連との共催事業

実技交流会の開催について

本年度は当初講師を招聘しての講演会を検討していましたが、実技交流会を持つことにしました。

日 時 11月22日（水）10時から15時まで

会 場 府立勤労会館6階 第2会議室

参加費 無料 内容は巻絵、影絵、紙芝居、OHP実演、実技講習として折り紙サンタ外。クリスマス行事用の飾りやリース作り。

クリスマスを抑えての楽しい催しで、堀口子ども文庫（城陽）の皆さん方はじめ各文庫からの出演。また実技講習では芸術短大の染川さんの一斉指導があり、ふうせん文庫・りす文庫の方々により、材料各自持参で作り、楽しい一時を過ごしました。参加者は100名で盛況でした。

2. 参考事務研究会 第3回研修会打ち合わせ

実技研修会の開催について

日 時 平成2年3月 午後1時～4時

会 場 未定

内 容 図書館の見学会と参考事務実技研修。他館を見学し参考図書類の説明後、それらの資料を使い例題の解決をする。（グループ別実習になる予定）

案内状発送は、各館へ平成2年1月下旬。

近公図研究集会日程

○奉仕部門研究集会

十二月七日（木）

京都堀川会館

（京都府立図書館）

○整理部門研究集会

二月一日（木）

京都市社会教育総合センター

（京都市中央図書館）

広報委員会だより

晩秋もいつしか移ろぎ、京の町はすっかり冬のたたずまいを見せています。

今号には、京都府立図書館長の林芳男氏から、原稿をいただきました。このたびお届けしました「会報」では、先に福知山市で開催された「一泊研修会」や、図書館事業に関する情報などを、出来るだけ提供するように努めました。

ご寄稿いただきました皆様方に、感謝申し上げます。

本紙に関するニュースなどお寄せ下さい。